

「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成

DOOR 一扉を開いて

令和3年度探究成果概念図

▼研究開発の背景

少子高齢化、急激な人口の減少 中心部の空洞化、都市の拡散、事業所数の減少等
 やまなし創世に資する人材＝グローバル人材の育成が必要

▼R3目標：『グローバル人材に必要な能力を育む体制やプログラムの構築』

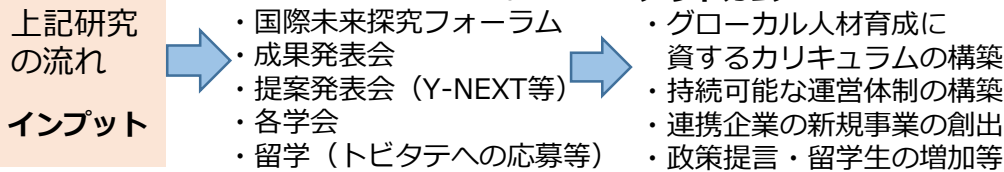
身に付ける能力「課題発見力、論理的思考力、創造力、コミュニケーション力、発信力」

▼取組状況・研究概要

研究の流れ

- ①多様な担い手によるコンソーシアムを構築する（右記）
- ②ワークショップ等にて各種課題を出し合い、課題を生徒主体で設定する
- ③明確化された課題に対して、コンソーシアムでチームを編成、連携しながら解決策について探究。必要なスキルを「学校設定科目」（下記）と連携しながら取り入れる（カリキュラム化）
- ④PoC（概念実証）を行い解決に向けた取り組みを行う
- ⑤成果については校内外で発表を行う
- ⑥PDCAサイクルを回し、カリキュラムの見直しを行う

展開のイメージ



学校設定科目（グローバル探究ⅠⅡⅢ）の取組状況

1年次

- 「グローバル探究Ⅰ」
- ・山梨県政策レクチャー
 - ・基調講演（農林水産省）
 - ・農業シンポジウム
 - ・連携大学講演
 - ・グローバルセミナー
 - ・課題の設定・調査研究
 - ・海外姉妹校共同調査

2年次

- 「グローバル探究Ⅱ」
- ・調査研究・検討（地域との協働、SDGsを視野に）
 - ・連携大学講座
 - ・海外講師と語るSDGs
 - ・イングリッシュプレゼンテーションセミナー

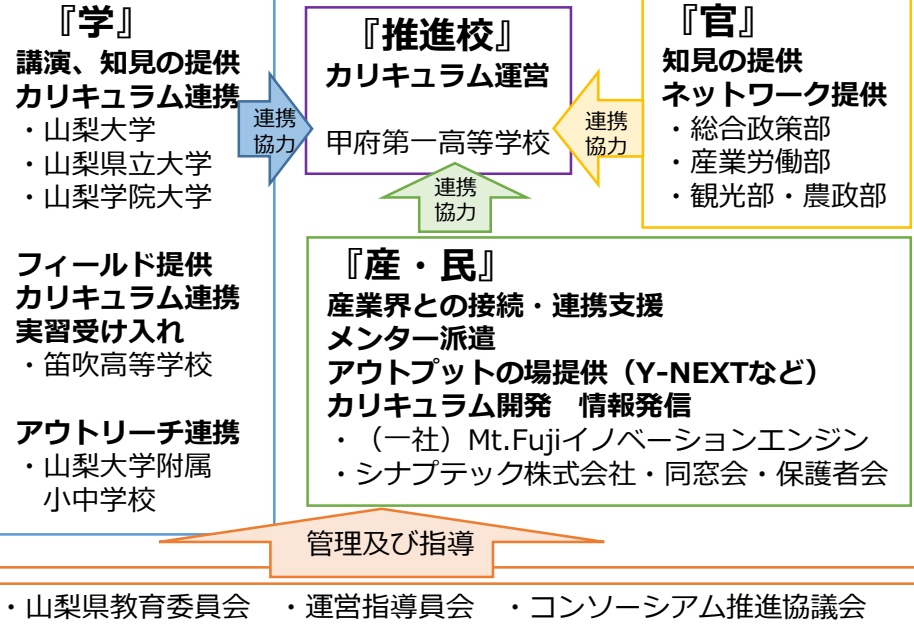
3年次

- 「グローバル探究Ⅲ」
- ・探究の深化と総括
 - ・論文作成及び投稿
 - ・自治体・企業への提案
 - ・政策提言等
- ◎各年次において成果発表会実施

コンソーシアムの構成・研究開発の実施体制

やまなし創世に資するグローバルリーダーを育成するために、

- ・甲府第一高校を推進校とした産学官民のコンソーシアムを構築
- ・オール山梨で取り組む体制を構築



▼成果と課題

- ①昨年同様、コロナ禍で多くの取組が縮小、中止、もしくは変更を余儀なくされる。特に1年生の基礎探究プロセス、2年生の校外実地調査や国際交流事業、3年生の提案活動への影響が大きい
- ②上記状況の対応による新しい展開及び発展連携の実例
 - ・イングリッシュキャンプの実施。国際交流事業の代替として県内に外国人講師をお招きした短期集中プログラムの展開
 - ・探究の停滞→企業人（Y-NEXT）メンターブラッシュアップ会による探究の深化
 - ・NPO法人・八ヶ岳SDGsスクールとの新連携と共同研修会の展開
- ③課題と今後の展望
 - ・コロナ禍で逆に獲得したメソッドを導入することによるカリキュラムの進化
 - ・オンラインの活用と国内外の交流の模索
 - ・継続探究（コンソーシアムとの連携）に向けた探究成果のデータベース化